

五月の爽やかな風が肌に心地よく流れる中、溢れんばかりの緑豊かな予科練の聖地、雄翔園にて開催されました、第四十七回予科練戦没者慰霊祭に私も遺族をご招待いただき、心から御礼を申し上げます。

私は、乙種飛行予科練習生第七期 故海軍中尉 西澤廣義の甥、西澤政充でございます。



叔父、廣義は大正九年一月二十七日長野県上水内郡小川村に誕生し、十六才の初夏まで自然豊かな小川村で、西澤家の三男として過ごして参りましたが、昭和十一年六月 当時の子供たちの憧れでもありました戦闘機乗りを目指して横須賀海軍航空隊に入隊をいたしました。まだ十六歳の少年でございます。

予科練を卒業後、霞ヶ浦海軍航空隊の飛行練習生の過程を経て、大分海軍航空隊、大村海軍航空隊、鈴鹿海軍航空隊で勤務し、開戦直前の昭和十六年には千歳海軍航空隊で来るべき日米開戦のための訓練をしていたと聞き及んでおります。

昭和十六年十二月日米が開戦してからは、サイパン、トラック島、ラバウルと転戦し、翌年二月三日にラバウルにて初撃墜を記録して三年、セブ島に特攻で使用する飛行機を空路輸送し、再度輸送のためマバラカット基地へ向かう輸送機に便乗して帰還途上、ミンドロ島北端上空で米軍機の攻撃を受け撃墜され戦死いたしました。

時は昭和十九年十月二十六日、当年とって二十四歳と十ヶ月の人生でございます。



撃墜王の称号をいただいたとも聞いておりますが、私共親族の自慢の叔父でございます。

叔父が、戦死をいたしましたも早くも七十年の歳月が流れてしまいました。この間、地元小川村の「西澤廣義を近隣で守る会」の大日方会長を始め、遠路はるばる足場の悪い中、叔父とご縁のある多くの皆様の墓参をいただきました。この場をお借りしまして心から御礼を申し上げます。

昨年九月、同じ長野県大町出身で、叔父より予科練の一期先輩にあたります翔鶴艦上攻撃隊故山岸昌司海軍飛行兵曹長の姪御様であります、平林峰子様のご紹介で、海原会理事長の堺 周一様が、叔父の墓参のために長野においでになった際に、ご招待をいただき、本日予科練出身戦没者

の遺族の一人としてこの慰霊祭に出席をさせていただきますこととなりました。

堺理事長様墓参の日は、朝から晴天残暑の日差し厳しい中、昭和十九年七月に硫黄島で戦死された長野県大町ご出身の横須賀海軍航空隊 故神社明海軍一等飛行兵曹の甥御様、神社正幸様とともに、叔父の墓地周辺の雑草刈りなどしていただき、心から感謝いたしております。

その際、お聞きしましたところ、海原会では昭和四十三年からこのように盛大に慰霊祭を行い、国のために一身を投げ打った、予科練出身戦没者の御霊を長年にわたりお慰めいただいているとのこと、遺族の一人といたしまして大変にありがたく心から感謝の言葉を申し上げます。

叔父が幼少期を過ごした小川村は今も、昔と変わらずに、西にはアルプスの山並み、紺碧の空に浮かぶ千切れ雲の中、飛行機が一条の飛行機雲を残して東の空へと飛び去り、四月には春を待ちわびたように草木が一斉に芽をふき、小川では小鮒が忙しげに泳ぎまわっております。



そんな、かつて日本の何処にでもあった故郷の風景をいま叔父は高い空の上から、一緒に旅立つ

た多くの予科練同窓の皆様とともに、そしてあの時、心で泣きながら大切な我が子を戦地に送り出した両親とともに眺めているのでしょうか。

いずれ私もあちらへ行き叔父に面会することになるわけですが、その時に叔父たちがその命と引き換えに守り抜いた日本の今を、はたして私は叔父に誇らしげに話すことが出来るのでしょうか。

いま私は、戦後六十九年の歳月が流れたいまも、こうして予科練の聖地に多くの皆様が集まり、予科練戦没者の慰霊を通じて、今の日本のあり方やそこに生かされている日本人のあり方を、自ら見つめる機会ともなっている事実を叔父に報告できず、大変に誇らしくさえ思っております。

予科練同窓の皆様も全員が齢八十を越えられました。くれぐれも健康に留意され、生きたくても生きる事が出来なかつた多くの予科練同窓戦没者の分まで長生きをされてください。

最後に、戦没同窓生の御霊の安らかなれと、本日まで長きにわたり慰霊祭を取りおこなっていただきました公益財団法人海原会様、そしてこの予科練生の聖地でもある雄翔園を守り続けていただいております、陸上自衛隊武器学校長様を始め職員の皆様、また毎年慰霊演奏をいただいております施設学校音楽隊そして、本日慰霊飛行をいただきます海上自衛隊下総教育航空集団並びに日の丸飛行隊の皆様にご敬意を表しますとともに、この地に航空隊が創設されたがために数々の空爆を受け、多くの親族の皆様が犠牲にな

られたにもかかわらず、戦後、予科練戦没者の慰霊のために一方ならぬご支援をいただいております地元阿見町町長様をはじめ町民の皆様、本日出席しております遺族並びに本日都合で出席できませんでした全ての遺族を代表して、心から感謝を申し上げ、誠に楚辞ではございますが遺族代表のご挨拶とさせていただきます。

平成二十六年五月二十五日

遺族代表

乙種海軍飛行予科練習生第七期

故海軍中尉

西澤

廣義

甥

西澤

政元